

1. 非鉄金属企業における化学の役割の例
2. 研究に基づく新規事業開発の私の管見
3. 未来への化学の貢献期待(私見)



JX金属(元 日鉱金属)  
元社長

大木和雄

# 非鉄金属企業における化学の役割の例

低濃度 (1% ~ P P M) 鉱物からの金属の抽出分離

金属の超高純度化 (6 N ~ 9 N) による新材料の創造

都市鉱山からの低濃度 (1% ~ P P B) 金属のリサイクル

【共通の技術基盤とその相互作用】

無機金属化学を駆使した生産技術とその超高純度化技術の開発

金属定量分析の伝統と最先端の超微量金属分析技術の開発

# 研究に基づく新規事業開発の私の管見

(企画・開発15年の体験から)

成功するには 時代の変化に適時に適合し、差別化の達成とその持続可能化が要諦。

真実であるが、後からわかるだけで、予測は、ほぼ当たらない。

しかも

- ・はじめ、市場が小さく、成功しても事業になるかわからない。
- ・ごく少ない成功例 しかも傍流からが多い。
- ・20年前後の長期の雌伏期間

しかし、

2番煎じや改良では、先行者にほぼ追いつかない。

そのような困難な中で、重視したのは、**人材**であった。

# 未来への化学の貢献期待(私見)

- ・現在では、多数のニッチ No.1 材料事業群が存在し、それが、日本材料産業の特徴となり、屋台骨を形成するまでに、成長している。
- ・さらに、環境・エネルギー、自動車等の分野も、持続的発展目標に沿って、大きな変革期を迎えており、材料分野の新たな事業チャンスが拡大している。
- ・この材料の他に、日本のもの産業には、化学の役割が大きい研究開発型の事業群が、特殊部品、分析・計測器などの分野で、目立たないが、多数、健在で、収益性も高い。
- ・これ等の持続可能性と発展は、化学の知識の増大と人材供給に今後とも依存している。